

主にありて愛する山田兄

はえ来とのかことに安心して居ります。

御元来までなくとも安心して居ります。

公に私に、陰に陽に、主にある御友情を

義謝します。

仁この天に於て明白と信じます。故に

と小まい、天のむこ入る日迄、仁こそ黙秘

して行きます。

黙秘のうちに通じ、遠くして近き文はり、

こふまある者の持極と信じます。

命も難儀も、仁は祈により、意外

に安まる居ります。此を心下さし。

仁この鈴木君より此難取下さる。

我ら一昔年が足の上、また此一かの上、

幸ふ多き一平ひんか、と祈ります。

この一年の所りなき思ふと回融して成

計の杯の備ります。

また此より一々此祈ります。毎々

昭和四年三月

山田兄

伊藤